

衆議院農林水産委員会ニュース

平成 22.5.14 第 174 回国会第 12 号

5 月 14 日（金）第 12 回の委員会が開かれました。

1 農林水産関係の基本施策に関する件（口蹄疫の発生状況及びその対応について）

- ・赤松農林水産大臣、山田農林水産副大臣、小川総務大臣政務官及び佐々木農林水産大臣政務官に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

江 藤 拓君（自民）

- ・5 月 6 日の記者会見で、山田農林水産副大臣は「口蹄疫の発生は、牛については落ち着いた」旨の発言をしていたが、政府の認識が甘かったのではないか。
- ・農林水産省の牛豚等疾病小委員会における「風によってウイルスが拡散することはない」等の発生原因についての曖昧な情報は、危機管理意識の欠如につながるのではないか。
- ・口蹄疫発生農家が経営を再建するまでの間の休業補償について、どのような対応を考えているのか。

小 里 泰 弘君（自民）

- ・口蹄疫の発生状況及び防疫対策はどうなっているか。
- ・口蹄疫の発生が継続している原因に政府の危機意識の欠

如及び初動対応の遅れがあると思うが、農林水産大臣はその責任をどのように考えているか。

- ・政府は、現地にも対策本部を設置して、対策にあたるべきではないか。

東 順 治君（公明）

- ・1 例目の発生確認から 3 週間以上経過しながら、殺処分された家畜の手当金等が支払われないのはなぜか。
- ・全国の畜産や宮崎牛を守るためにも、移動制限区域内にある宮崎県家畜改良事業団の種牛をすべて区域外へ移動させるべきではないか。
- ・総務大臣及び農林水産大臣が総力で取り組む旨の共同声明を発表することにより、人心を安定させるとともに迅速な行政対応を推進していくべきではないか。